

みんなで 支え合い

地域包括ケアシステム

高齢になると、心身の不調や病気と付き合うことが増えます。高齢になるにつれ発症リスクが高くなる病気の一つに認知症があります。

今回は、認知症カフェを通じて、認知症の人やその家族と「共に生きる」地域づくりを目指している秋吉ヒトミさんにお話を聞きました。

誰でもつながれる
気軽な語らいの場を

医療や介護の現場で働いていた秋吉さんは「介護などが必要になる前から気軽に集まれる場が地域にあれば、人と人がつながって支え合えるのになあ」と感じていました。

また仕事柄「認知症の理解を広めたい」「認知症の人や家族の心の支えとなる場を作りたい」と感じていました。そこで、ボランティアで認知症カフェとして「たんぼぼカフェ」を始めました。

認知症カフェは、年齢などを問わず誰でも気軽に集える



「たんぼぼカフェ」を運営する秋吉さん

場で、認知症への理解や地域社会とのつながりを深めることができる取り組みの一つです。「たんぼぼカフェ」は月に

一度、認知症の人や家族、ご近所さんなどが集い、お茶やコーヒーを飲みながらにぎやかに語らう場となっています。「何より自分が楽しんでい

ます。そうでなければ続けられません」と秋吉さんは笑います。利用者やその家族からは「夫婦で楽しみにしているよ」「家族が笑顔で利用している姿を見てほっとするのよ」などの声があるそうです。

認知症を
「知る・学ぶ・考える」

認知症になっても住み慣れた地域で生活を続けるには、家族はもちろん、地域の皆さんの認知症に対する正しい理解や温かい支援が必要です。

今後、認知症カフェのような地域の活動を発信し、認知症を「知る・学ぶ・考える」場づくりを推進していきます。

認知症カフェに
遊びに来ませんか



市内には現在、二つの認知症カフェがあります。気軽にご参加ください。



喫茶いこい

- 日時 第2土曜日、13時30分～15時30分
- 場所 さわか穂の家(市内立明寺)
- ☎(918)3830



たんぼぼカフェ

- 日時 第3土曜日、14時～16時
- 場所 たんぼぼ薬局(市内筑紫)
- ☎(922)1508

このように、既存の活動やつながりを大切にしつつ、地域に関わるさまざまな人や団体ができる範囲で支え合う、まちづくりが広がっていく姿は、まさに地域包括ケアシステムであり、市でもこのような取り組みが広がるよう努めています。

●問い合わせ先 高齢者支援課